

東日本大震災で被災された皆さまにお見舞申し上げます。

3月11日の大震災で被災された皆さまに心よりお見舞申し上げます。

あまりの甚大な被害に、しばらく自然の威力と自分のあまりの無力さに呆然とし、それでも何か行動したいと、多くの方が寄付や物資を届けられたことと思います。

私自身が浦安で被災者の立場になり、液状化で、水が出ない、トイレが使えないという被災生活を体験しました。ようやくライフラインは一応復旧しましたが、本復旧はこれからです。たくさんの皆さまにお見舞を頂き感謝しております。しかし、津波や原発の被災者の方を思うと、家が無事で住めるだけで被災者というもおこがましい気がし、当たり前と思っていた暮らしが、どれほど脆く、ありがたいことなのかを改めて教えられました。

この震災で何か大きな変化が起きていると感じます。過酷な状況の中で助け合い、人の為に献身的に尽くす方々の神々しいまでの姿に、私たちの中で眠っていた「自分は人とつながることで生かされている」という感謝の思いが呼び起こされている気がします。私の街、浦安でも、人と人とのつながりが急速に育っています。

私たちマンションコミュニティ研究会も、この人と人との「つながろう」という芽が生まれつつあるこの時期に、多くの方がマンションで安心して暮らせるよう防災とコミュニティのたいせつさを感じていただける活動して参りたいと思っております。被災経験からも学び、人とつながりながら、自分たちのできることを、少しでも行動に移して行きたいと思っております。皆さまと共に。。。 代表 廣田信子

切手のいらない年賀状運動に1万人が参加しました！

人と人との温かい「つながり」は、私たちが安心して暮らすためには不可欠です。あいさつを交わすだけの関係をもう一步進め、ゆるやかでも、いざというときは頼りになるご近所関係をつくっていききたいと私たちは行動を始めました。その最初の種まきとして、「今年のお正月、近隣へ切手のいらない年賀状を届けてみませんか」という運動に全力で取り組みました。

カード付きの冊子を作成し、1万世帯にこの冊子を届けることを目標に、皆さんに働きかけました。お陰様で11月の後半から、私たちの思いが急速に広がり、NHKの全国ニュースで取り上げられたこともあって、奇跡のように1万という目標を達成することができました。たくさんの方の温かい気持ちの結集です。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。



★半年で、北海道、九州、四国と、切手のいらない年賀状運動は全国に広がりました！

研究会の立ち上げが昨年4月。7月の設立記念フォーラムで「今度のお正月、切手のいらない年賀状運動に1万人の参加を目ざします」と発表！ でも、どうやって進めるのか、私たち自身まだ分かっていませんでした（笑）とにかく、ツールをつくろうと、「カード de コミュニケーション」の原案を急ぎ作成し、あらゆる機会に熱く語りました。「理窟より、まずは、年賀状を送るという小さなことからでも行動しましょう」と。。。

その活動で、多くの方の共感を得て、この運動はきっと広がるという確信が持てました。「みんな同じ思いだったんだ。人とつながるきっかけを待っているんだ。」と勇気をもらいました。

冊子が出来上がったのが10月20日、それから2ヶ月で1万を越える冊子を全国各地でエントリーして下さったマンションに届けました。最後に送ったのは、なんと愛媛県、12月27日のことでした。

★切手のいらない年賀状運動をきっかけに様々な温かいドラマが！

この運動をきっかけに、マンションでは、私たちの想像をはるかに超えた温かいドラマが展開しました。

神奈川のあるマンションでは、私たちの話を聞くために居住者の集まりを企画し、冊子を若いお母さんたちが子どもと共に、1軒、1軒回って直接手渡してくれました。それをきっかけに、なんと高齢世帯と子育て世代の世代間交流の第一歩が踏み出せたといえます。

また、埼玉の別のマンションでは、女性の理事さんが、自作のカードをケースに入れ掲示板に取り付け、年賀状運動に参加する人が自由にとれるようにしたところ、あっという間にカードはなくなり、うれしい悲鳴！追加、追加で、結局1000枚をつくったとのこと。

「人は、ほんとうはつながりたいと思っているんだ」と改めて知り、コミュニティ活動への自信を深めたようです。

そして、運動を進める側にも様々なドラマが。。。最初は、カードなんて・・・といったマンション管理士さんが、いっしょうけんめいセミナーで紹介してくれるように大変身！管理会社も、新築間もないマンションのコミュニティ形成支援で参加してくれました。自治会で、防災に近隣の助け合いは不可欠と、自治会長が防災用品とセットで一軒ずつ配布してくれたマンションもありました。

この運動はマンションに縁のある誰もが関わることでできる運動だと改めて教えられました。

切手のいらない年賀状運動に参加した方からのメッセージを紹介します！

●40歳代女性(福岡)より

お顔がわかる10数軒に年賀カードを送りました。すると、翌日には家の郵便受けにほとんどの方からお返事が！どれもこれもうれしくて、思わずもう一度お返事を書きたくなりました。

カードを受けとることが、こんなにうれしいものとは。。

これに味をしめて、春になったら今度は「桜がきれいですね。」のカードを送りたくなりました。

●50歳代女性(仙台)より

知人からこの運動を紹介され、左右と上下の方に、個人でチャレンジしました。

子供のいる上階の方には、「お子様の気配がないと、風邪でも引いたのではと心配になります。」と、足音が聞こえても気にしないことをアピール。

思いもかけず、返信が来たのがうれしかったです。受け取った方も、思いがけずうれしく感じてくれたのかもしれないと思いました。相手の方も「切手のいらない年賀状」で返してくれました。

●居住者の皆さんにオリジナルの年賀カードを送られた理事長さんより

7名から返信がありました。その返信内容を2つばかり紹介します。

- ・このカードをいただき、このマンションに永住しようと決意しました
 - ・カードをみました。今後は管理組合の集会に積極的に参加させていただきます
- 発信者として嬉しくなるような返事をいただいています。

こんなに反響があるとは・・・予想外です。。



●60歳代男性(神奈川)より

同じフロアに、闘病中の方がいらっしゃることを知って何かできないかといつも気になっていました。この機会に勇気を出して

「当方、定年退職し家で時間をもてあましております。お近くですからいつでもお声を掛けてください」

と年賀カードを送ったところ、相手の方がほんとうに感激されて、菓子折りを持ってたずねてこれられました。

気に掛けているとさりげなく伝えることが、闘病中の人にこんなに通じるんだと、こちらが感激しました。

書いてよかったです。

●70代女性(横浜)より

次期理事候補への連絡年賀として使いました。喪中の方が、年賀状は出していなかったがマンションの中の子供同志のあいさつに使用してよかったと話してくれました。

コミュニティカードは、管理組合、自治会の連絡に非常に便利だと思いました。

今回は、PR 期間が短かったので、なかなか広く利用するまでに行かなかったのがちょっと残念です。

●管理組合法人(京都)理事長さんより

全体では185戸に配布し、使用しないため返却されたのが25部でしたので全体の 86%が使用されたか、または、今後使用したいと言うことで保管している状況にあります。

「カードをもらって嬉しかった。田舎が伊勢でお正月に帰ったので「赤福もち」を買ってきた」といってお土産を届けてくれたり、別紙のようなカードが届いたりといった動きが芽生えています。「このマンションは、こういった呼びかけが受け止められるマンションなんだ」と感じた声も聞きます。

コミュニティ委員会の検討の中でも、1回では結果は直ぐには出ない。3 年ぐらい継続して、普通に受け止められるようになるといった思いで取り組もうと確認しています。

ありがとうございました。

私達の組合では、近隣の同時代に建設された 10ヶ所約2千戸のマンション管理組合同士の交流会の場を定期的に持っています。次回のこの場で、この取り組みをご紹介したいと考えています。

「切手のいらない年賀状」運動を通じて、私たちのマンヨンで新しいコミュニケーションが芽吹くよう、また、大きく花が咲くよう努めていきます。どうもありがとうございました。

●頂いたお返事の紹介

理事長様 何時もお世話して下さっている理事会 コミュニティの皆様ありがとうございます。

何かにつけ隅々まで細かいお心配りに日々感謝して居ります。全国的に有名な当マンションに住まわして頂き安心して最後を迎えられると喜んでおります。厚く御礼を申し上げます。



●50歳代女性(東京)より

入居して10年になりますが、はずかしながら真下に住んでいる方がどんな方かはっきりしませんでした。

今回思い切って、郵便受けで名前を調べて年賀状を書きました。返事は来ないだろうと思っていたら、エントランスで御礼の声を掛けられ、あのご夫婦だったのかとわかりました。10年来の懸案事項が片づきホッとすると同時に、マンションに対する愛着が増した気がします。

●70歳代男性(北海道)より

今回初めての試みでしたが、予期せぬ返戻があり、普段言葉を交わす機会がない相手も、コミュニケーションを意識している感じを受け、カードの有効性を確認しました。

コミュニティカードの裏面のデザインはもう少し簡素化してはいかがでしょうか。

●マンション全体で取り組んだ60歳代理事長より

今回の震災でライフラインが止まり液状化でたいへんな状況となりました。お正月に取り組んだ年賀状運動が図らずも役立ち、マンション住民が協力し合って乗り切りました。この震災でマンション住民のきずなは、たいへん強いものになりました。今回の体験で培われた「自分たちのマンションは自分たちで守る」というマインドが、大きな財産になると思います。



たくさん寄せられた年賀状運動のメッセージのつづきです！

●60代女性より

年賀、クリスマスカードとして、同じエレベーターを利用している方で花壇やゴミなど手入れをしてくださっている方に送りました。日ごろの感謝との気持ちとお礼。

感謝の気持ちがあってもなかなか伝えるタイミングがないまま過ごしてきたが、年始クリスマスなどを機にお伝えすることはよいことだと思います。

またお返事を頂くとさらに嬉しくコミュニケーションをはかるにはよい方法だと思います。



●70代男性より

「カードdeコミュニケーション」を管理組合役員に配布しました。

役員から、「切手のいらない何賀状」をマンション内の多数の居住者に配布しました。

4割の人からは、返礼がありました。

●70代女性より

管理組合理事長より冊子を頂き、マンション居住者の方へクリスマスカード、年賀カードとして使いました。

普段お世話になっている方のお礼を込めて。。。

マンション内の方に、カードをお出しするのは初めての経験でしたので、嬉しかったです。

コミュニティカードは、まだ使っておりませんが、後日メッセージ用として使います。

●40代女性(千葉)より

送った相手は80代の女性。頂いた相手は60代男性、20代・30代・50代の夫婦

送った相手は80代の女性は、今現在、マンションに住んでいなくケアホームに入居してしまい、会えなくなってしまった80代の女性に息子さんを通じて送りました。

その80代の女性は、とてもなつかしく私からのハガキを読んでいと息子さんからの返事があり、私自身も大変嬉しく思いました。私が年をとった時にハガキを頂いたらきっと嬉しく思います。

末永くカード de コミュニケーションをやっていききたいと思います。

そして…今年…

私たちの取り組みは、無縁社会ともいわれる都市に、私たちが安心して住み続けるための「**新たなきずな**」を築いていく**チャレンジ**でもあるんだと感じます。

震災というピンチからも学び、いざというときの「安心」を感じられるマンションコミュニティを育てるために、皆さんと共に「行動」したいと決意を新たにしました。

今年度も、フォーラム、勉強会、カード運動、講演等へのご支援、ご参加をよろしくお願い申し上げます。

マンションコミュニティ研究会は、「**集って住むってステキ!**」が常識になる未来をめざし、マンションという集住のスタイルが本当に価値あるものになるために活動する研究会です。まずは自らが「行動」が合い言葉です。

勉強会やフォーラムの実施、カード運動のツールの共有、メルマガ発行等で、全国の皆さんとつながっています。

マンションコミュニティ研究会事務局

〒158-0094

東京都世田谷区玉川 4-37-6 クリップ生活研究所内

TEL 090-7829-7094

FAX 044-752-8037

e-mail: info@mckhug.com URL: <http://www.mckhug.com>